



1号 令和5年4月3日

<学校教育目標>

自ら伸びる ともに伸びる

校長だより(職員編)

呉市立市阿賀小学校
安宗 誠

一にも二にも「居場所づくり」

年度初めのご挨拶 (HP 掲載)

校長の安宗 誠と申します。本校に赴任して5年目を迎えます。創立146年を迎える長い歴史と伝統のある学校です。私自身が本校で学び、教諭としても勤務させていただいた昔と全く変わることのない保護者・地域の皆様方の情の深さや惜しみないご協力に唯々感謝するばかりです。

お陰様で、このことが子供たちの姿にも大いに表れており、「全国学力・学習状況調査」では好成績を挙げ続け、呉市から善行表彰を受けたボランティア活動(「阿賀小児童ボランティア隊」(AJV))も10年目を迎え、すっかり定着・・・等々。

児童数480名(4月1日現在)の大きな学校ですが、授業中の落ち着いた様子は相変わらずです。このことは、学校教育目標「自ら伸びる ともに伸びる」を踏まえ、本校職員が組織一丸となって、また、阿賀中学校と一貫して(小中一貫教育)、さらには、阿賀地区の教育機関、自治会等が積極的に連携(「阿賀学園地域教育連携協議会(アカデミア)」)しながら、教育を進めている成果でもあります。

「自ら伸びる ともに伸びる」姿を支えているもとななる心は、「感謝の心」であると捉えておりますが、この心をさまざま活動を通して、「大きな渦」にして、さらに育てていくことに、保護者・地域の皆様と一体となって取り組んで参りたいと存じます。

本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

令和5年4月3日

呉市立阿賀小学校長 安宗 誠

本年度のキーワードは、一にも二にも「居場所づくり」

昨年度から、呉市の研究指定を受け、授業における「居場所づくり」と生活における「居場所づくり」に重点的に取り組んできました。本年度が研究指定の最終年!11月7日(火)の研究会には、これまでの取組の成果を思いっきり発揮しましょう。阿賀中学校区の子供たちの「居場所」をつくる!これが合言葉です。そのために、引き続き、中学校区の教職員全員にとっても職場が「居場所」となり、組織一丸でことを進めて参りましょう。ここで今一度、授業における「居場所づくり」と生活における「居場所づくり」で目指すことを確認しておきましょう。

1 授業における居場所づくり

- (1)「分かった」「できた」を実感させるための取組の重点
 - ア 導入で児童生徒の「なぜ?なぜ?」を引き出す。
 - イ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の相互作用により学びを深める。→より深い自己選択・自己決定につなげる
 - ウ 必要感の「対話」、効果のある「ICT活用」の場を設定する。
 - エ 「発展的振り返り」により、授業と家庭学習を線でつなぐ。
- (2)「絆」を実感させるための取組の重点

4つの場面(①一斉授業 ②協働学習 ③個別学習 ④自己内対話)で、いわゆる生徒指導の三機能のうち満たすべき機能を定め、満たし得る手立てを工夫する。



2 生活における居場所づくり

- (1) 登校していない実態に応じた居場所づくり(本音で話せる・興味関心に沿うために)
 - ア タブレット等でつながり続ける。
 - イ タブレットによる授業視聴を試みる。
 - ウ 「かがやきルーム」で過ごしてみる。
- (2) 登校しているが、教室に行けない実態に応じた居場所づくり(よき理解者の存在・「やってみたい」を引き出す)→「SSR・かがやきルーム」の充実
 - ア 利用する子どもと一緒に環境づくり
 - イ 利用する子どもと一緒にイベントを企画運営
 - ウ 利用する子どものボランティア活動を企画運営
 - エ タブレット等で所属学級とつながる
- (3) 教室には居るが、教室が居場所とは感じていない実態に応じた居場所づくり

子ども同士が絆を感じる場を教師が黒子に徹しながら仕掛ける。